アメリカでの国際会議にはじめて出席して

川本　清*

海外交流

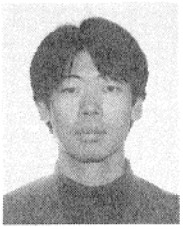
はじめに

私は大阪府立大学の修士課程を終了し，1992年4月に大阪大学の博士後期課程に進学しました．この間，主に低速イオン散乱法と呼ばれる手法の検討，あるいは改良に取り組み，固体表面上での原子の配列構造や組成の分布状態を調べてきました．この手法はキロボルト程度のエネルギーに加速されたイオンビームを標的に当て，散乱された粒子の持つエネルギーを調べるものです．プローブイオンと標的原子の相互作用を古典力学であらわすことが可能なため，表面近傍の構造を各層毎に，また直視的に観察できるという特長があります．後期課程に移ってからは新たにイオン散乱装置を設計し，その製作中には計算機シミュレーションを用いてその装置により可能となる測定について調べていました．この装置が完成し，実験，および計算のいずれもまとまったデータが得られたため，これを国際会議で発表することになりました．海外はおろか飛行機にも乗ったことはありませんでしたが，「国内も国外も学会発表にそう差があるわけでもないだろう」となかば信じ込むようにして出かけてきました．

テキサスにて

私の参加した会議は「第13回加速器の応用に関する国際会議」で，1994年11月7～10日に米国テキサス州，ダラス・フォートワース空港の北約35マイルに位置するデンソンという町の，ノース・テキサス大学で開催されました．日本よりは寒いだろうと考えていたのですが，思いのほか暖かく，セーターは仕舞い込んだままになりました．国道沿いのモーテルに宿泊した私は会場と宿舎を結ぶシャトルバスだけが頼りでしたが，その範囲で見たところデンソンは国道を中心に発達した住宅地といった風情でした．大学内では各建物間には車道とは別に芝生の中を散策路のような通路が張りめぐらされていました．人々は当然のようにその通路を利用し，芝生といえば柵をめぐらし立入禁止になっている日本との違いが気になりました．

今回の会議は主にイオン加速器そのものの開発，改良，またそれを利用した計測，分析に関するもので，その範囲を加速器のエネルギー領域であらわすなら大はGeVから小はkeVまでの非常な広域に及びます．私はポスターセッションにおいて，低エネルギーイオンの固体表面での散乱に関する計算機実験による結果と，その結果を基に最近作製した新しい低速イオン散乱装置とそれによる実験結果の2件の論文を発表しました．セッションは300件弱のポスターペーパーを四つのグループに分類しパラレルに構成されていました．会場は体育館のギャラリーで，私の発表はPB，PCという分科に属し，なぜかそれぞれの掲示位置は体育館のフロアをはさんでおよそ反対側という位置にあたり，数十分毎に両者の間を行き来することになりました．私の用いている加速エネルギーは数keV領域に相当し，本会議では最も低エネルギー側に属するため興味をもっていただけるか少々心配し



* Kiyoshi KAWAMOTO
1967年5月8日生
1992年大阪府立大学大学院総合科学研究科物質科学専攻修士課程修了
現在，大阪大学大学院工学研究科電子工学専攻在学中(尾浦研究室)，修士(理学)，表面物性
TEL 06－879－7776

たのですが，多いとは言い難いものの数名の方と議論することができました．私の語学力不足の為に，詳細が伝わったかの不安は残りますが，それでも私と同様の装置を試作中だという方も現われて，意を強くし，またより進んだ実験を計画していかねばと考えています．

ポスターセッションの発表時間は夕方6時30分からの3時間半と，私のこれまでの体験の中でも最長でした．やはり，というのでしょうか，2時間を経過したあたりから聴衆も減りはじめ，中にはポスターを外して閉店する発表者まで現われました．そんな中，隣の発表者の方といつまでいなきゃいけないんだ，発表時間が長すぎる，などと雑談をしていたのですが，3時間が過ぎた頃に宿舎を回る最後のシャトルバスがセッション終了時刻に出発するというアナウンスがありました．夜中にバスで10分の距離を，しかもアメリカで，歩いて帰ることなど考えたくもありません．しかしそれはご当地の方々も同様だったようで，そこかしこであとかたずけが始まりました．結局バスは予告どうりに出発し，果たしてどれだけの発表者が最後まで残っていたのやら，今となっては知る由もありません．

この時間に正確なのかルーズなのか，仕事が早いのか遅いのか良くわからない例はほかにも見られました．とある会場ではセッション開始直前まで試験が行われており，早めに到着したものの何もできずまちぼうけにあいました．それでも時間どうり開始されたのだからたいしたものなのですが，廊下で待たされるほど早く来たのは日本人ばかりだったというのもおかしなものです．

もうひとつ，今回の国際会議に出かけて良かったことに，日本人の中堅研究者の方々と知り合う機会が得られたことが挙げられます．海外にまで出かけていながら日本人の話か，とも思われますが，よきに付けあしきに付け身内同志集まる習性（？）のおかげで，国内でお会いするのとはまた違ったお話を伺うことができました．現在同じ分野でご活躍の諸先輩方もそのバックグラウンドはさまざまで，参考になることも多く，まだまだ私のものの見方は一面的だと考えさせられました．

その他のことなど

私の発表の当日，11月8日はアメリカの中間選挙の投票日にあたり，路面やベンチの上などの学内の至るところに投票を呼びかける'VOTE FOR ＊＊＊'といった落書き（？）が出現しました．日本から投票日の情報を仕入れて渡米したため，民主主義の本場の選挙運動はさぞや壮絶なものなのではと考えていたのですが，旅行者の目からは国政選挙前とは思えないような平穏さに少し拍子抜けしていたところでした．ビラがまかれるわけでもなく，拡声器での呼びかけがあるわけでもない，選挙当日の静かなる投票呼びかけに，騒音を撒き散らす日本の選挙との差が感じられました．日本的選挙運動など，ここでは非能率この上ないのだろう，などと物思いにふけって油断してベンチに腰掛けたのがいけなかった．私のスラックスにはチョークで書かれた'V'の字が写ってしまいました．やはり投票当日の選挙運動は止めたほうがいい．

お わ り に

以上，簡単に私の国際学会体験を記してみました．本文で触れた以外に，某航空会社は説明もなく7時間も遅れたこと，食品のサイズに閉口したことのほか，大学に9年もいながら私の英語はこの程度かと感じたことを記しておきます．今年も国際会議へ参加すべく現在準備を進めており，今回の反省を生かしていきたいと考えています．

最後になりましたが，今回の発表に際し社団法人生産技術振興協会の海外国際会議渡航助成金より援助をいただきました．今回の会議に於いても発表をキャンセルされる方が多くおられましたが，幸運にも必要にして十分な援助をいただいたことに感謝いたします．